

# 2021年3月期第1四半期 決算説明資料

2020年8月12日（水）  
株式会社 **力ネカ**

# 目 次

---

業績概要	1
セグメント別 売上高・営業利益	2
事業概況	3
貸借対照表	7
今後の見通し	8

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



# 業績概要

**Kaneka**

カガクでネガイをカナエル会社

(単位：億円)

	2020年3月期 1Q	2021年3月期 1Q	増減	
			金額	%
売上高	1,488	1,266	△ 222	△ 14.9%
営業利益	70	20	△ 50	△ 71.0%
経常利益	55	8	△ 47	△ 85.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	35	4	△ 31	△ 87.5%
<b>1株当たり四半期純利益</b>	<b>53.53円</b>	<b>6.70円</b>		

- 今期（2020/4-6）のトピックスは、何と云っても、新型コロナウイルスの爆発的流行（パンデミック）です。世界中でCOVID-19の恐怖が広がり、全ての産業セクターの経済活動が（ほとんど停止状態に近い）大幅な縮小を余儀なくされるという前例のない事態となりました。はかり知れない世界経済の打撃が続いています。
- 原油は、瞬間的ではあるが、▲37.63ドルをつけた。米国のGDP成長率は前期比年率▲32.9%という過去最大の減少幅を記録した。日本も▲27%と戦後最大の下げ幅となった。非常に深く暗い落ち込みの爪痕が世界各国に広がっています。
- このような状況下、当社グループの第1四半期（2020年4月～6月）の業績は、売上高は126,644百万円（前年同期比14.9%減）、営業利益は2,029百万円（前年同期比71.0%減）、経常利益は823百万円（前年同期比85.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は437百万円（前年同期比87.5%減）となりました。



# セグメント別 売上高・営業利益



(単位：百万円) 株式会社

	売上高				営業利益			
	2020年3月期 1Q	2021年3月期 1Q	増減		2020年3月期 1Q	2021年3月期 1Q	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	60,176	48,894	△11,281	△18.7%	5,590	2,855	△2,734	△48.9%
Quality of Life SU	38,468	29,738	△8,729	△22.7%	3,728	1,236	△2,492	△66.8%
Health Care SU	10,949	11,698	748	6.8%	1,905	2,298	393	20.6%
Nutrition SU	38,908	35,938	△2,969	△7.6%	1,200	827	△373	△31.1%
その他	320	373	53	16.8%	180	248	67	37.7%
調整額	-	-	-	-	△5,600	△5,436	163	-
計	148,822	126,644	△22,178	△14.9%	7,004	2,029	△4,975	△71.0%

※SU：Solutions Unit

- 今期の業績を事業ポートフォリオの視界から分析しました。その特徴は次の通りです。
- 第一の特徴は、研究開発資源を優先的に投入してきた先端事業群（E&I・PV・Medical・Pharma・Supplement・農業生産支援）が、コロナ禍による世界経済の大幅な縮小にも拘らず、対前年比で増収増益が継続出来ていること。そして、第二には、Material SUとQOL SUに属するコア事業群（Vinyl・MOD・MS・Foam・Fiber）では、需要がコロナ感染拡大により消滅し減産に追い込まれました。そのことが今期の大幅な減収減益の最大の原因でした。
- 最近の米国化学協会の発表や世界の製造業の景況感調査によれば、世界の化学セクターは、このコロナ禍で他の製造業と同様に生産が縮小しましたが、減産は3月をボトムに4、5月は縮小し6月は増加に転じたことが報じられています。
- 因みに、当社も、減産していたMaterial SUやQOL SUに属するコア事業群が5月を底に6月から増産に転じています。
- 直ぐにはコロナ前のレベルに戻らないでしょうが第3Q、第4Qには緩やかな足取りでコア事業群の生産は回復し、増産による年間の収益改善を見込んでいます。
- 尚、このコロナ禍を内なるパラダイムチェンジの好機と捉え、R&Bの「選択と集中」やリモートワークを一例とする新しいワークカルチャーの導入など下半身強化による生産性の向上に取り組んでいます（経費削減：今期5億円）。

**売上高** 489億円 (対前年同期  $\Delta$ 18.7%)

売上高構成比 **38.6%**

**営業利益** 29億円 (対前年同期  $\Delta$ 48.9%)



## Vinyls and Chlor-Alkali

- PVC・か性ソーダ：インドのロックダウンの影響で減収減益。

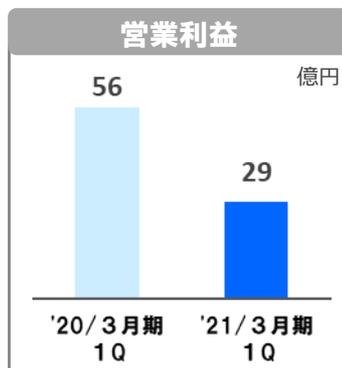
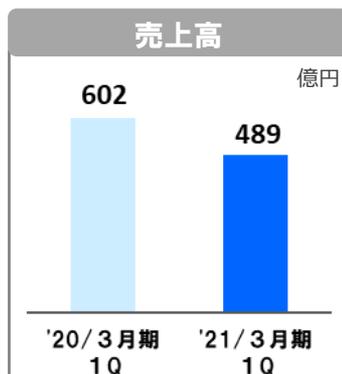
## Performance Polymers (MOD)

## Performance Polymers (MS)

- MOD・MS：欧州・米国の需要落ち込みで減収減益。
- MX：用途開発が進み、能力増強設備が予定通り稼働。

## 新規事業

- PHBH：多くの国内外ブランドホルダーとの共同開発が順調に進展。20,000t量産プラント建設決定に向け、生産性向上、コストダウンの最終検討を進めている。





# 事業概況 (Quality of Life Solutions Unit)

**売上高** 297億円 (対前年同期  $\Delta 22.7\%$ )

売上高構成比 23.5%

**営業利益** 12億円 (対前年同期  $\Delta 66.8\%$ )

## Performance Fibers

- 頭髮はアフリカのロックダウンで需要大幅減少。パイル・難燃もコロナ禍で需要低調。新設のガーナの商品開発センターを活用し早期販売回復を目指す。

## Foam & Residential Techs

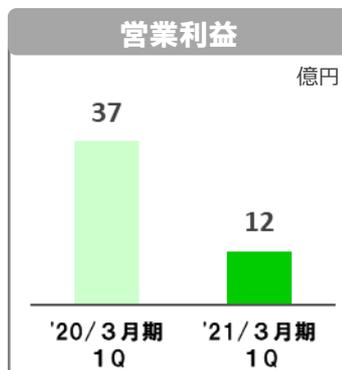
- EPS、押出しボードは魚箱、建築土木減で低迷。エペランは世界的自動車減産で影響大。

## PV & Energy management

- 住宅向け高効率太陽電池は販売堅調。ビル、自動車向け壁面・シースルー太陽電池の共同開発を推進。

## E & I Technology

- PI・GSでスマホの緩やかな回復。OLED・5G向け独自製品の開発を強化。

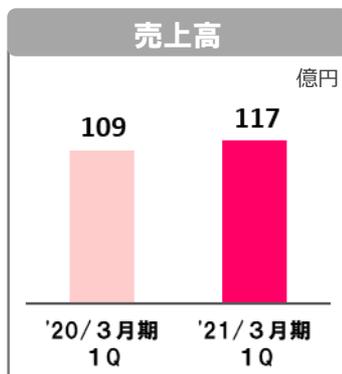


**売上高** 117億円 (対前年同期 6.8%)

売上高構成比 9.2%

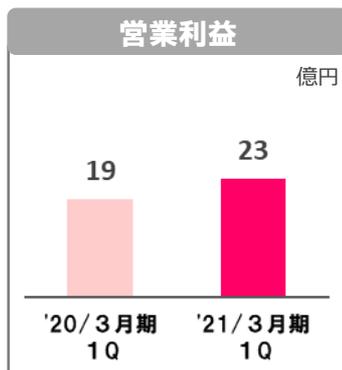
**営業利益** 23億円 (対前年同期 20.6%)

## Medical



- カテーテルはコロナ禍で販売は一時的停滞も回復基調。塞栓コイル好調で、米国でも販売予定。現状比3倍のベトナム工場能力増強決定。新規医療領域での技術・資本提携を積極展開中。培養CAL法を用いた乳房再建治療をスタート。

## Pharma



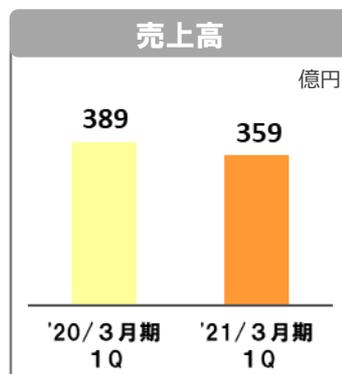
- 大阪合成、KEGTの能力増強が事業拡大に貢献。コロナ対応としてアピガンの原薬供給、検査試薬の供給をスタート。プラスミドDNA最先端高度技術でアンジェス社のワクチン中間体の生産受託。
- 感染症をドメインとするインフェクション研究チームを立ち上げ。

**売上高** 359億円 (対前年同期  $\Delta 7.6\%$ )

売上高構成比 28.4%

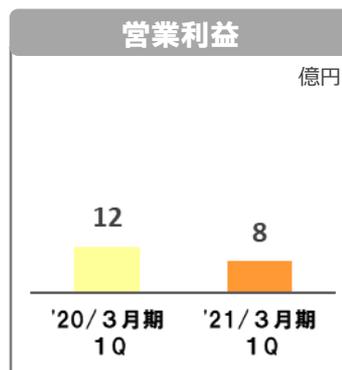
**営業利益** 8億円 (対前年同期  $\Delta 31.1\%$ )

## Foods & Agris



- 外食、インバウンド減によるパン・菓子需要低迷。中食増でカネカサンスパイスイ好調。乳製品販売堅調、有機酪農を開始。別海（北海道）で酪農農業生産法人を設立。

## Supplemental Nutrition



- 未病意識の高まりで米国でQH好調。乳酸菌は欧州好調で米国でも販売開始。科学的な情報発信を強化し、多様なサプリメントによるブランド戦略を展開。



# 貸借対照表

(単位：億円)

	2020年3月末	2020年6月末	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	3,069	2,993	△ 76
固定資産 等	3,464	3,513	49
資産合計	6,533	6,506	△ 26
<b>負債の部</b>			
有利子負債	1,308	1,385	76
その他	1,683	1,580	△ 103
負債合計	2,992	2,965	△ 27
<b>純資産の部</b>			
自己資本	3,315	3,313	△ 2
非支配株主持分 他	226	229	2
純資産合計	3,541	3,542	1
<b>負債、純資産 合計</b>	<b>6,533</b>	<b>6,506</b>	<b>△ 26</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>50.7%</b>	<b>50.9%</b>	
<b>1株当たり純資産</b>	<b>5,082.08円</b>	<b>5,079.53円</b>	

- 総資産は、売掛金の減少等により減少
- 負債は、買掛金の減少等により減少
- 純資産は、その他有価証券評価差額金の増加等により増加

## ① 世界経済の見通し



コロナ禍の影響は第1四半期をボトムに、第2四半期より緩やかに回復に転じ、2021年後半から本格的に回復すると見る。

## ② 2020年度連結業績予想

(単位：億円)

	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (予想)	増減	
			金額	%
売上高	6,015	5,600	△ 415	△6.9%
営業利益	260	210	△ 50	△19.3%
経常利益	202	164	△ 38	△18.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	140	100	△ 40	△28.6%

【前提条件】 為替レート：108円/米ドル、120円/ユーロ 国産ナフサ価格：28,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



## セグメント別業績予想

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (予想)	増減	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (予想)	増減
Material SU	2,418	2,155	△ 263	206	155	△ 51
Quality of Life SU	1,548	1,366	△ 182	142	94	△ 48
Health Care SU	464	525	61	89	115	26
Nutrition SU	1,574	1,544	△ 30	56	53	△ 3
その他	11	10	△ 1	5	6	1
調整額	-	-	-	△ 239	△ 213	26
計	6,015	5,600	△ 415	260	210	△ 50

※SU：Solutions Unit

- コロナ禍で生産停止したコア事業群 (Vinyl・MOD・MS・Foam・Fiber) は第3Q、第4Qには緩やかに生産回復し、増産による年間収益の改善を見込んでいる。
- 当社の成長を牽引していく先端事業群 (E&I・PV・Medical・Pharma・Supplement・農業生産支援) は引き続き堅調な収益拡大を見込む。
- R&Bの「選択と集中」やリモートワークを一例としたバックオフィス機能の強化など高い生産性の事業運営に取り組む。(経費削減30億円)

### ③ 2021年3月期配当予想

- 上記2020年度業績見通し及び安定的な利益還元継続という基本方針のもと年間100円を据え置く(中間50円、期末50円)。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



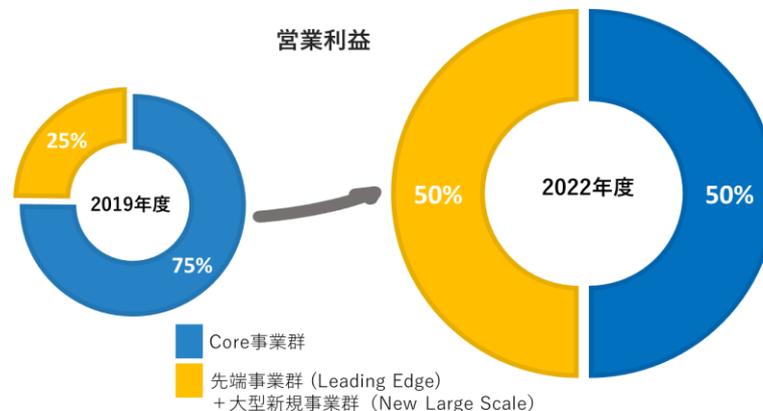
## ④ 2022年への成長

- 2021年度後半からの生産活動はコロナ前の水準を取り戻す。1年遅れの業績回復を見通す。

売上高 7,000億円      営業利益 530億円

- コロナ禍を契機として急速に社会のパラダイムシフトが進むなか先端事業群（E&I・Medical・Pharma・PV・Supplement等）を戦力強化する。

PHBHなど注目大型新規事業群に経営資源を重点化投入しR&Bの果実刈り取りを加速させる。



- コア事業群（Vinyl・MOD・MS・Foam・Fiber・Foods）がユニークな事業特性を磨き、事業基盤として経営を支える強いプラットフォームを構築する。

- 大型新規事業

PHBH：

久々の大型事業である。数ある新規事業群のなかで集中的に経営資源を投入する。

当社の2つの技術源流（酵母発酵技術と高分子ポリマー技術）をユニークに組み合わせる技術開発を急ぎ、早期に大型商業運転を実現する。

- 経営のDX化を急ぐ

経営資源の効率的な投入により、強靱な企業体質へ転換する。

＜IRに関するお問い合わせ＞

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090